れ、伊策。」

伊策は、自分で自分をはげましながら、新しい方法を考えていきました。今までのように、研究会で発表するだけでなく、いろいろな雑誌に、自分の研究の結果と、それについての考えを発表するようにしました。しかし、特に注意して読んでくれる人はあまりいませんでした。

## 道に生きる

大正十年（一九二一年）八月、会津若松で農村教育講習会という集りが開かれました。講師は、そのころアメリカでの研究を終えて帰国されたばかりの水野常吉という大学の先生でした。話の内容は「これからの農村で仕事の能率をよくするにはどうしたらよいか」ということが中心でした。この話を聞いてい